

説教ワンポイント

愛してる、と言えなくて

ヨハネ二・二五〜一九

復活の主に驚きながらも弟子たちは共に朝の食卓を囲みました（一五節）。喜びもさめやらぬ頃、イエスはおもむろにペトロに呼びかけます。

「ヨハネの子シモン…」（二五節）。

出会ってすぐペトロと言う新しい名を与えたはずなのに、なぜ急に昔の名前で？ びっくりした、そして、悲しかった。思い当たることがあった。一番大事なあのとき、自分はイエスを裏切った。「知らない」と言ってしまった。もう弟子と呼ばれる資格は…。そんなペトロの心に、続くイエスの言葉はさらにつきささる。

「この人たち以上にわたしを愛するか」

生前、十字架の運命を打ち明けるイエスに強い

口調で物申した。「主よ、たとえみんながつまづいても私はつまずきません。ご一緒なら牢に入っても死んでも良いと覚悟しております」。

まさに舌の根も乾かぬうちに…。「はい、愛します」などと、どの口が言えるでしょう。せいぜい「私があなただを愛していることは、あなたが知っています」としか。どうか分かって欲しい、懇願する胸の内がすけてみえる。やりとりは三度続く。「知らない」といった回数と同じ。心が張り裂けそうになる。ペトロにイエスは言いました。

「私の羊を飼いなさい」。

ご自身の大切な役割を託す、というのです。私たちの弱さも醜さも全部ご存知で、なおも主はあなたに全幅の信頼を寄せられる。主を信じるより先に、主があなただを信じておられる。